

悔しさ糧に飛躍 「少しでも早く、多く試合に」

八学大卒業生としては初のJリーガー。ハードワークをいとわずピッチを縦横無尽に駆け回り、ボールを受けた際にはためをつくって攻撃の起点になるプレーが持ち味だ。

北海道出身。小学2年の時にスポーツ少年団で競技を始めた。「新しい技ができるようになっていくのが楽しかった」。上級生にもまれながらもきめきと上達。高校は地元最強、北海道大谷室蘭に進んだ。

高校時代、忘れられない試合がある。3年の夏、全国高校総体道予選の準決勝だ。相手は格下と見られた帯広北だったが、スコアレスのまま延長戦に突入。前半に先制を許し万事休すと思われたが、後半に2点を奪って劇的な逆転勝ち。高校生活で初の全国大会出場を決めた。

ただ、自身がその試合で、チームで最も多くのシュートを放ちながら、得点を決められなかった。「これで負けたら自分のせいだと思った」

嫌な流れは全国高校総体にも続いた。初戦でピッチ上の誰よりもシュートを放ちながら、ゴールネットを揺らすことができなかった。チームは

敗れた。「あの時、自分が決めていれば」。ストライカーとして感じたふがいなさは忘れない。

大学では悔しさを振り払うようにシュート練習を繰り返す。決定力不足を克服。ミドルレンジからもゴールを狙えるようになり、攻撃の選択肢が増えた。「自信が付いた」

憧れだったプロとしての一歩を踏み出した。「まだまだ足りないところだらけ」だが、「伸び代しかない」と前向きに捉えている。「少しでも早く、多く試合に出たい。出た試合では必ずゴール、アシストという結果を出す」。強い気持ちで練習しながら飛躍の時に備えている。

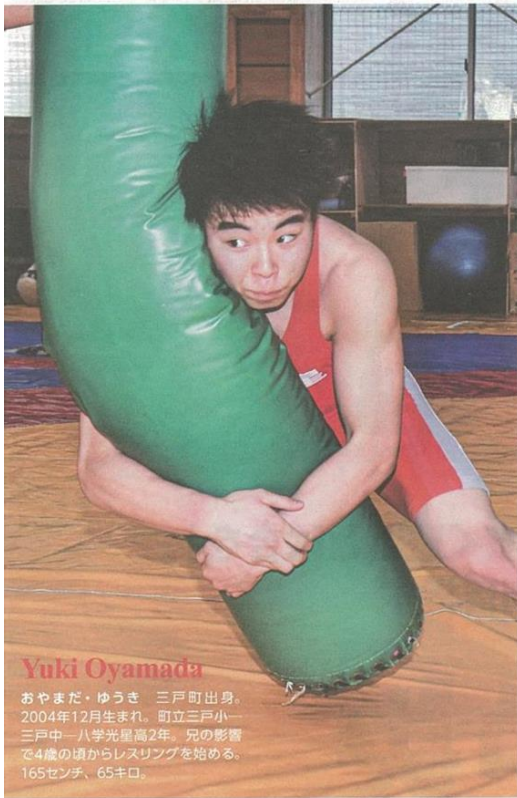
まだまだ足りない所だらけ

えばた・しゅんすけ 2000年1月生まれ。北海道出身。大谷室蘭高一八学大卒。攻守にハードワークをいとわず、前線のためにつくれるプレーが身上。趣味は散歩で、風景を眺めて気持ちをリフレッシュさせる。172センチ、68キロ。

FW

江幡俊介

Shunsuke Ebata



Yuki Oyamada

おやまだ・ゆうき 三戸町出身。
2004年12月生まれ。町立三戸小―
三戸中―八学光星高2年。兄の影響
で4歳の頃からレスリングを始める。
165センチ、65キロ。

レスリング／八学光星2年

小山田 裕紀

素早いタックルに磨き
「集大成の年へ弾みにしたい」

三戸町生まれだが、幼少時代は父親の仕事の都合で、愛知県内で暮らしていた。4歳ごろに3歳上の兄の影響で、地元少年レスリングクラブに通ったのが競技との出会いだ。

小学3年の時に三戸町に引っ越すと、スポーツを重視する家庭の教育方針から、八戸市内のレスリングクラブに通いながら地元で野球や相撲などにも取り組んだ。中学時代は相撲とレスリングの二足のわらじ。最後の年は2競技で全国大会を経験した。

高校は相撲強豪校からの誘いを断って、八学

光星に進んだ。兄も学んだ同校レスリング部の指導者の「一緒に全国チャンピオンになろう」という一言が決め手だった。

高校の練習は予想以上にハード。それでも、地道な鍛錬の成果で、昨春は初戦敗退ながら、全国高校選抜大会出場を果たした。だが、昨夏の全国高校総体は力不足で青森県予選で涙をのんだ。その悔しさを糧に、持ち味の素早いタックルに磨きをかけた。

今大会も昨年と同じ、個人60キロ級にエントリー。勝ち上がれば3回戦で昨夏の全国高校総体王者との対戦が見込まれている。「接近戦でも勇気を持って攻め込み、集大成の年への弾みにしたい」と気合十分だ。